



竹下 幸智子

日本共産党津市議団

## 認可保育所の増設で待機児童の解消を

問 希望する保育所に入れなかった入所待ち児童（待機児童）は、4月1日時点で年齢別に何人いるのか。

働きたいお母さんなど保育ニーズは広がりを見せている。児童福祉法は市町村に保育の実施を義務付けているが、希望する子どもがすべて入所できる公立認可保育所の増設を求める。

答 保護者の中には、特定の保育所を希望され、その保育所が利用可能となるまで待たれる場合がある。その場合は、待機児童には該当しないが、平成30年4月1日時点で96名（0歳児16名、1歳児27名、2歳児49名、3歳児3名、4歳児1名）である。

不足がちな保育の需要への対応としては、新しい子育て支援の手法として、こども園の整備を行うこととしており、2020年度までに5カ所の幼保連携型認定こども園の整備（平成30年4月3カ所開園）を計画している。

今後は、民間事業者が、認定こども園に移行という形もあり、地域における教育・保育の需要状況をしっかりと踏まえて、協議していく。

## ● その他の質疑・質問 ●

○保育士の待遇改善を

○太陽光パネル設置について

●住民とのトラブルには適切な対応を

●津市独自のガイドラインまたは条例の制定を

○学校体育館に洋式トイレを

○公園の適正な維持管理とトイレの設置を

○出産予定日を過ぎた妊婦の健診費用を市費で補助せよ など



▲保育園児みんながお気に入りのすべり台



川口和雄

津和会

## 休園中の雲出幼稚園の今後の活用は

問 雲出幼稚園は昭和43年の開園以来長きにわたり、雲出地区の幼児教育を担ってきた。当該地区にとっては、大切な幼児教育の提供の場であった幼稚園が休園となったことは、地元として大変重大なことである。

今後の幼児教育の体制がどのようにしていくか、地元住民から心配や不安の声が聞こえてきているが、どのような方向で検討していくのか。

答 雲出幼稚園は、雲出地区の児童数が減少傾向であること、保育需要が非常に高い状況であること、また幼稚園の利用希望者が近隣の香良洲浜っ子幼稚園等に入園されている状況であることから、幼稚園としての存続は難しいと判断している。

休園直後、地域の方々からは、地域の中高齢者と子どもとの交流の場として活用したい、雲出保育園の移転を行ったらどうかなどの提案をいただきしており、施設や園庭の広さ、国道23号に近接している地理的な面、隣接する雲出小学校が津波避難ビルに指定されているという危機管理面での優位性を踏まえ、雲出地区の子どものための教育・保育環境の改善や周辺地区の教育・保育の提供量を検証し、8月中に結論を出していきたい。

## ● その他の質疑・質問 ●

○津市藤方林跡の造成地について



▲雲出幼稚園を利活用して老朽化した雲出保育園の移転を